

2019 TOEIC® セミナー 報告書

学生の将来を後押しする
大学の取り組み

～ 社会のニーズから考えるTOEIC® Programの活用 ～

2019年8月23日(金) ACU博多

学生の将来を後押しする大学の取り組み ～ 社会のニーズから考えるTOEIC® Programの活用 ～

2019年8月23日(金) ACU博多

基調講演 立命館アジア太平洋大学 (APU) 1

世界で活躍するグローバル人材に必要な資質とは

学長 出口 治明 氏

事例発表 ① 福岡女学院大学 8

教室談話の質的転換が英語コミュニケーション力を育てる － インタラクティブな授業を目指して －

副学長、国際キャリア学部国際英語学科 教授 細川 博文 氏

事例発表 ② 北九州市立大学 17

北九州市立大学におけるグローバル人材の育成に向けた取り組み － 北方キャンパスにおける新グローバルプログラムの展開と国際環境工学部に おけるTOEIC® L&R目標達成までの道のり －

副学長、国際教育交流センター長 二宮 正人 氏
基盤教育センター 教授(国際環境工学部担当) 柏木 哲也 氏
基盤教育センター 准教授(国際環境工学部担当) 岡本 清美 氏

主催：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
後援：米国大使館、福岡商工会議所



おかげさまでTOEIC® Programは、40周年を迎えることができました。
これからもTOEIC® Programは、英語コミュニケーション能力を公平公正に
評価する世界共通の基準として、進化し続けます。

世界で活躍するグローバル人材に必要な資質とは



立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長 出口 治明 氏

■若者の国連であり、小さな地球である APU

僕がAPUを紹介する際にいつも使っているプロモーションビデオがあります。このビデオはプロの制作会社に頼んだものではありません。タイから来た学生が勝手につくったビデオですが、とてもよく出来ています。その学生はいま何をしているかといえば、去年の3月にAPUを卒業し、ベトナム人と日本人と3人でプロモーションビデオの制作会社をつくり、日本で活動しています。

APUは、こうしたチャレンジングな学生を育てたいと思っている大学です。学生が約6,000人いて、半分の3,000人近くは92の国や地域から来ています。まさに若者の国連であり、小さな地球といえます。

■「タテヨコ」の発想で物事をフラットに見る

人間は全て各自の価値観や人生観という“色眼鏡”を掛けて世の中を見えています。議論するときには、できるだけその色眼鏡を外してフラットに世界を見なければなりません、そのためには方法論が必要です。僕は「タテヨコ算数」と言っています。

タテは、昔の人はどう考えたかということです。人間の脳みそは1万年以上進化していません。脳みそが同じなので、昔の人の意見は参考になります。

ヨコは世界の人々の意見です。例えば夫婦別姓問題。世界をみると、36あるOECDの先進国の中で、法律婚の条件として夫婦同姓を強制している国は皆無です。また、平政子は源頼朝と結婚しても姓を変えなかったように、本来の日本は夫婦別姓の国です。夫婦同姓は日本の伝統だとか家族を壊すとか言っている人たちは単なる不勉強か、イデオロギーや思い込みが強い人であることがわかります。やはり、どんな問題でもタテヨコの広い発想で見ることが大事です。

■「算数」はエビデンスであり、データである

もう1つは算数です。欧米の強欲な資本主義はもうダメだとか、これからは日本的経営が世界を救うのだとか言う人がいますが、困ったものです。アメリカのように石油埋蔵量が世界一で、人口も増え続けている国と比較するのはもうやめた方がいいと思います。

同じように少子高齢化に悩んでいるヨーロッパと比べてみると、この30年間、ヨーロッパは労働時間が1,300～1,500時間の間で平均2%成長しています。これに対し日本は、正社員に限定すれば平成の30年間、労働時間はまったく減らず2,000時間を超えていて、1%成長しているかどうかです。

どちらがいいか。聞くまでもありません。なぜ「骨折り損のくたびれもうけ」のように長時間労働をして伸びないかといえばマネジメントが良くない以外の解

はありません。これが算数です。エピソードではなく、エビデンスで考えるということであり、データ重視ということです。

■ 先生が探究力を持たなければ、子供たちの探究力も育たない

例えば、根拠のない校則があります。

APUの女子学生が高校時代に経験した話ですが、彼女は髪がすごく長いので、食事時などには髪をまとめていました。彼女は髪を上にとめるのが好きなので、上でまとめていたら高校の先生に注意されたそうです。「なぜ後ろでまとめないのか」と。「まとめる必要は分かりますが、なぜ上が悪くて後ろがいいのですか」と聞いたところ、「そんな社会常識もおまへはないのか」と言って余計に怒られたということです。

これでは文科省が学習指導要領で明示した「探究力」が付くはずがありません。先生に探究力がないのですから。子供たちがヘリクツで質問をしてきても100%自信を持って答えられない校則は全てパワハラです。そこに根拠がないわけですから。原点から考える探究力を先生が持たないで、どうして子供たちの探究力を鍛えることができるのですかと、僕はいつも学校の先生方に申し上げます。根拠なき精神論が日本中に蔓延しているのは本当に困ったことです。物事を考えるときには「タテヨコ算数」ということを常に頭に入れておいていただきたいと思っています。

■ 世界と仲良くするためのグローバル

近年、世の中ではグローバルという言葉が盛んに使われています。でもなぜグローバルかということ腹に落ちるようには誰も教えていません。しかし、これはとても簡単な問題です。

現代社会は、産業革命の3要素である化石燃料と鉄鉱石とゴムの上に成立しています。これは近代文明

の象徴である自動車や飛行機を見ればすぐに分かります。まさに化石燃料と金属とゴムの塊です。

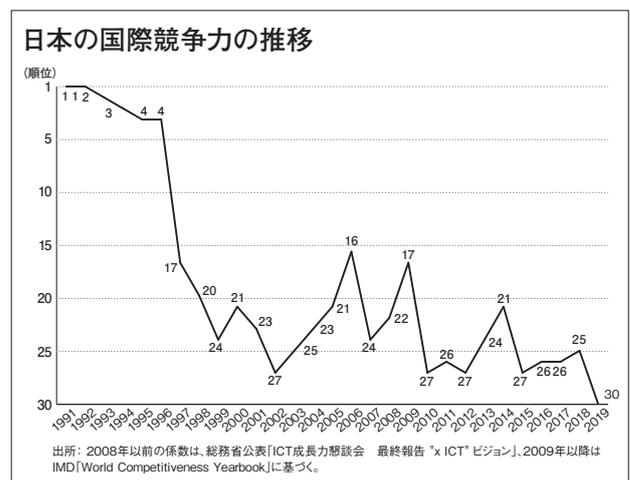
しかし、残念ながらこの3つの基礎資源は偏在しています。アメリカのように化石燃料が世界一の国であれば自国ファーストでやっていけます。でも日本をはじめとするほとんどの国はこの3要素を持っていないので、世界と仲良くする以外の方法はありません。これが、グローバルに活躍していかなければいけない一番分かりやすい説明だと思っています。

■ 競争力が世界1位から30位に落ちた日本

どんな人材が必要かを考える上で、今の日本がどういう状況に置かれているかを知らなければ、必要な人材像は見えてきません。特に高校や大学で教育を行うということは、今の高校生や大学生が10年後、20年後の日本を背負うわけですから、将来の日本のためにはどういう人材が必要かということを先ず考えなければいけません。

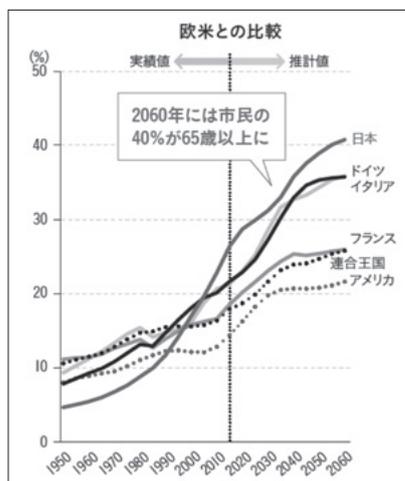
そこで、平成の30年間を総括します。日本のGDPの世界シェアは、この30年間で8.9%から4.1%まで半分以下に減少し、国際競争力は1位から30位にまで落ちていきます（資料1）。平成元年の世界のトップ企業20社を見れば、日本企業が14社入っていました。今は0です。GDPが半減し、競争力が1位から30

(資料1)



位に落ち、世界のトップ20社の中から日本企業が消えた。これがこの30年間の出来事です。経済はうまくいっていないし、世界で一番高齢化が進んでいる、それが日本という国です（資料2）。

（資料2）



■ 世界のトップ企業に躍り出たGAFA、ユニコーン企業

年を取ったらどうなるのでしょうか。家計面では、まず出費が増えます。僕は歩くのが大好きで、若いときは2~3km平気で歩いていましたが、最近は雨が降ったら横着になって、ついタクシーに乗ってしまいます。高齢化とはそういうことです。お金がかかるのです。

世界で一番高齢化が進んでいる国は、世界で一番成長しなければ貧しくなるしかありません。使うお金が増えていくのであれば、稼がなければ貧しくなるしかないわけです。つまり日本は、経済を活性化させる必要性がアメリカやヨーロッパよりも高いのです。この30年間でなぜこう低迷したのか。そのヒントは、日本企業を押しつけて世界のトップ企業に躍り出た会社はどんな会社かを見ることです。

それはGAFAといわれるGoogle、Apple、Facebook、Amazonや、その予備軍とされるユニコーン企業です。これらの企業は非常に若い。Facebookは高1です。わずか16年で、日本トップのトヨタ自動車の2倍の時価総額を持つようになりました。

■ モノづくり神話にこだわりすぎた日本

つまり、新しい産業を生めなかったことが日本の衰退の全てです。最近の日経新聞によれば、ユニコーンは世界に380社。アメリカ200社弱、中国100社弱で、日本は3社です。なぜ、日本はユニコーンを生めなかったのか。それは製造業の工場モデル、モノづくり神話にこだわりすぎていたからです。

モノづくりに必要な人材は、偏差値がそこそこ高く、素直で我慢強く、協調性が高くて上司や先生の言うことをよく聞く生徒です。一方、GAFAやユニコーンを興している人々は、多国籍で多様な価値観を持ち、かつ高学歴です。ほとんどがダブルドクターやダブルマスターです。

日本は好きなことを徹底的に極める人間を育ててきませんでした。先ほどの校則の話のように、みんなで決めたことを守りましょうという教育をしてきた。これでは未来はありません。これからはスティーブ・ジョブズのような個性の尖った人間を育てなければいけないのです。人間は全て顔かたちが違うのですから、中身も違って当たり前ということを教育の根底に置かなければいけません。それが今の日本の置かれている状況です。

■ これからのグローバル社会に必要な資質

かつて私たちは産業政策に必要なのは土地と資本と労働力であることを習いました。広い土地があって、工場を造り、いい機械を買ってたくさんの労働力を集めれば自動車ができる。しかし、GAFAやユニコーンは土地も資本も労働力も要りません。全てが頭の中から生まれています。今やアイデア勝負の世界になっているのです。個性を伸ばしているいろいろなアイデアを出せるような教育をしなければいけません。これが「これからのグローバル社会に必要な資質」です。

必要な資質とは個性です。人は違って当たり前なので、自分の頭で、自分の言葉で、自分の意見を言う人

間を育てることが教育の根幹です。一部には、国語が大事で、子供のうちに英語を学ぶと考える力が付かないという意見を言う人がいますが、これは根拠なき精神論です。今ではこうした議論は無意味なものであることが世界中でシェアされています。脳科学が進化して、母国語をつかさどる部位と第2言語をつかさどる部位は違うことが明らかになっています。国語・算数・理科・社会の4教科は必須ですが、これに英語をプラスしても邪魔にはならないということは、脳科学的に証明されているのです。

ただし、人間の脳は疲れやすいため、1日で活動できる時間は2時間×3～4コマが限界です。ハリウッド映画の上映時間もだいたい2時間です。政府がこの4月から残業規制や休暇規制を厳しくしたのは長時間労働、つまりメシ・フロ・ネルの生活ではアイデアが出ないことに気がついたからです。休みもしっかり取らなければいけません。アイデア勝負の時代になったら長時間労働をしても意味がないということを、政府もようやく分かってきたのです。

質疑応答

Q TOEIC® Programの活用法として、大学では要件スコアを設定してそれを卒業要件にしたり、企業でも昇進などの要件に設定しているところが増えてきています。一律にそうした要件スコアを課すということをどう思われていますか。私は少し抵抗を感じています。

A 本当に英語力を上げようと思ったら、TOEICもTOEFLも関係ないと思います。ほとんどの日本人は、なぜ勉強していい大学を目指すかといえば、いい会社に入るためです。極端なことを言えば、経団連の会長がTOEIC® L&R700点以上でなければ面談しませんと言えば、学校の教育がどうあってもみんな勉強します。そうした仕組みをつくれるかつかれないかが、英語力に影響するのだと思います。僕は日本には本当に英語が必要だと思っています。理由の1つは、資源がない日本は孤立しては生きていけない国だからです。もう1つは英語を勉強することが、世界を広げるからです。マルクスは大英博物館に通って『資本論』を書きましたが、なぜ大英博物館に通ったかといえば、そこに行かないと文献が読めなかったからです。今、大英博物館をGoogleで検索すれば、蔵書のほぼ99%を読むことができます。今であれば、マルクスはどこでも『資本論』を書けるのです。

Google検索すれば分かりますが、英語はLingua Franca（国際共通語）になっているので、情報量が桁違いに多いのです。ですから英語を勉強することは、仕事で使うとか使わないとかという問題ではありません。広い世界にアクセスしているようなことを知れば人生が楽しくなる、その効果の方がはるかに大きいのです。知識は力、Knowledge is powerです。英語を勉強することは、広い世界にアクセス経路を持つことだと認識すべきだと思います。

Q 近年、日本人の留学生の数が減っています。これは、海外留学をしても日本企業への就職に役に立たないからだとか、留学して個性が強くなった学生は煙たがれるからだという話をよく聞きます。こうした考えが経済衰退の大きな要因だと言われましたが、これから変わることができるのでしょうか。

A 今のままの一括採用、終身雇用、年功序列、定年という労働慣行を維持し、どんどん衰退していくのか、競争することによって成長するのかの二択だと思います。どちらにするかは、皆さんがどういう企業、どういう経営者を選ぶかで決まります。

未来はどうなるかという質問に対しては、僕はいつも分からないと答えています。皆さんが明日も今日と同じように行動するのなら変わりませんし、そんな企業にはもう就職させないと行動すれば少しずつ変わります。将来どうなるのかという話ではなく、皆さん一人ひとりが行動するかどうか、未来を変えたいかどうかなので、分からないということです。僕は、変えたいと思っています。だから自分なりに行動しているのです。

Q 30年後の2050年頃には、医学の進歩によって、実年齢は90歳だけど見た目や中身は30歳ぐらいの人間が出現するのではないかとわれています。世の中では、そうした医学の進歩という要因を抜きにして、人間は老い、社会は働く機能を失っていくという前提で議論されていることが多いですが、それについてはどう思われるでしょうか。

A その考えには2つの異論があります。私たちホモ・サピエンスという生物は、この1万年の間まったく進化していません。ホモ・サピエンスも他の動物と一緒に、次の世代を育てるとだいたい死を迎えます。ホモ・サピエンス本来の寿命は、生体の構造上50～60歳だと考えられています。80～90歳に寿命が延びたのは技術のおかげです。簡単に言えば、

眼鏡と歯医者です。目が見えなくなって物が食べられなくなれば、他の動物に食べられてしまいます。医学がいくら進んだところでホモ・サピエンスの構造は変わりません。ちなみに、男性にも女性にもある更年期というのは、50～60歳で死ぬべき人間が生き延びそうだということで調整しているのです。つまり、動物としての限界を技術は超えることができないというのが1つの視点です。

また、少子高齢化は仕方がないと諦める人が多くいますが、これはとんでもない間違いです。きちんとした政策を実行すれば、フランスのように出生率は10年で1.6から2.0に戻ります。

日本の一番の問題は男女差別です。少子高齢化の全ての原因は、この男女差別にあると思っています。良い男性とは、家事や育児、介護を一所懸命手伝う男性だという歪んだ考えが社会に蔓延している限り少子高齢化は止まりません。

ホモ・サピエンスの歴史は20万年です。そのうち19万年は狩猟・採集の生活をしていて、全て集団保育でした。つまり、ホモ・サピエンスにとっては保育園で育てることが正常なのです。ですから家事、育児、介護は本来女性の仕事であって、それをお手伝いする男性が素晴らしいというような歪んだ考えは一扫しなければいけません。家事、育児、介護は社会全体で支えて、男性も女性も等しくシェアするという気持ちがなければ少子高齢化は直らないと思います。そして男女差別をなくす一番いい方法は、ヨーロッパでの30年の経験から、クオータ制（公的機関や企業の構成員の男女比率を平等にする制度）という答えがもう出ています。

Q 私は1986年生まれなので、競争力が強かった1990年頃の日本がどのような状況だったか分かりません。その頃はどんな時代だったのでしょうか。今と比べて良い時代だったのでしょうか。

A 簡単に言えば、日本が元気だった『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の時代です。しかし、今の方が良いと思います。なぜかといえば、1番なら落ちるしかありません。30番ぐらいなら良い湯加減です。自分で考えて、行動して、社会を変えて、15番ぐらいに上げてやると考えれば楽しいと思います。

Q これから10年、今できていないことで、何かされたいことはありますか。英語教育に関して何か計画がありましたらお聞かせください。

A 今の大学でおかしいと思っていることがあります。それは、就職率〇〇%とその高さを誇らしげにアピールしていることです。就職率〇〇%が何を意味するかと言えば、既存の企業や役所に勤める人をたくさん養成しているということです。

今ある企業や役所に勤める人だけを養成しているのは、日本の将来はありません。日本の将来は新しいチャレンジがなければ拓かないのです。学生の3分の2ぐらいは今の企業や役所に就職してもいいですが、3分の1ぐらいは大学院やベンチャー、NPOに行っていってほしいと思っています。1970年にILOが統計を取り始めてからずっと日本の労働生産性はG7最下位です。労働生産性と一国の大学院生の卒業生の比率はきれいに正比例します。きちんと勉強した人がたくさんいる社会の方が知恵を働かせて成長するのは当然です。

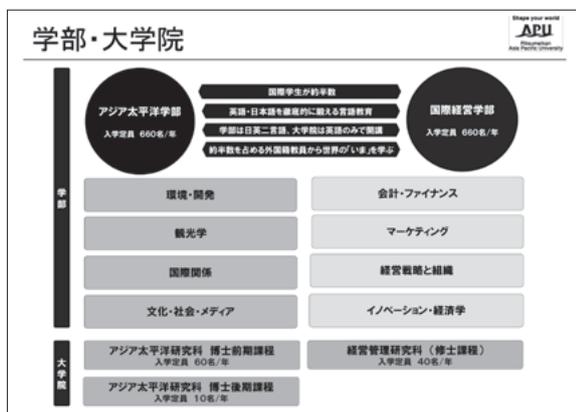
ですから、大学院に行き、国際機関に勤める、あるいはベンチャーを興す、NPOをつくる、そうした学生を3分の1ぐらいは送り出したいと思っています。今の大学のほとんどが、大学を挙げて就職活動の手助けを行っていることに極めて違和感を覚えています。

APUの英語教育については、3年以内に日本人全員を100%留学させる計画を実行中です。

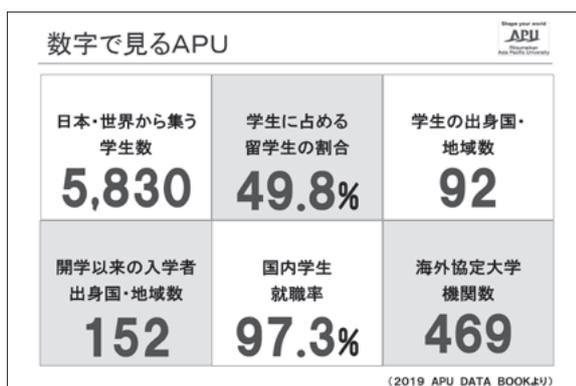
APUの概要

民族・宗教・文化の違いを越えて共に学ぶ

立命館アジア太平洋大学 (Ritsumeikan Asia Pacific University : APU) は、2000年、学校法人立命館が大分県別府市に創設した私立大学である。「アジア太平洋学部」(環境・開発、観光学、国際関係、文化・社会・メディアの各研究科)と「国際経営学部」(会計・ファイナンス、マーケティング、経営戦略と組織、イノベーション・経済学の各研究科)の2つの学部からなっている。



基本理念は「自由・平和・ヒューマニティ」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を体現し、国際社会に貢献する人材を養成すること。現在は2030年に向けた将来像「APU2030 ビジョン」を掲げ、世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティを構築し、そこで学んだ人たちが世界を変えることを目指している。



2019年5月1日現在、学生数は5,830人。うち国際学生(留学生)は約半数の2,906人で、出身は92の国と地域にわたっている。また、教員も総数166人のうち、外国籍教員が80人となっており、国際的な学習環境の中で、民族・宗教・文化の違いを越えて共に学び、相互に理解を深めている。

国内・海外および短期・長期の多彩なプログラムを用意

人材育成入試では、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を高大接続で一貫して伸長し、APU独自の“探求型の学び”のツール「ロジカル・フラワーチャート」などにより批判的思考力を備えたグローバル人材を育成している。

また、日本国内、世界各国・地域から多様なバックグラウンドを持った意欲あふれる多くの学生を受け入れるため、年2回(春・秋)の入学制度とクォーター制度(1クォーター2か月)を採用している。学内の公用語は日本語と英語で、学部講義の約90%は日英2言語で行っている。

授業では集中的な言語学習で英語や日本語を学ぶだけでなく、専門科目を英語や日本語で学ぶことで、国際ビジネスや学術の世界で通用する高度な言語運用能力と専門知識の習得につなげている。また、1回生向け異文化体験学習プログラムや、海外言語集中研修、専門分野調査研究プログラムなど、国内・海外および短期・長期の多彩なOff-Campus Study Program



交換留学・共同単位



フィールド・スタディ(専門分野調査研究型プログラム)

教室談話の質的転換が 英語コミュニケーション力を育てる

— インタラクティブな授業を目指して —

福岡女学院大学 副学長、国際キャリア学部国際英語学科 教授 細川 博文 氏



■ TOEIC® Programが問うコミュニケーション能力とは何か

本学の英語教育とTOEIC® Programの活用についてお話しさせていただきます。特に、焦点を当てたいのは学生に対して行っている個人指導です。

もう1点は、TOEIC Programに対する見方です。普通は受験者の立場からTOEIC Programを見ますが、私は指導者の立場から見ています。TOEIC Programがどんなコミュニケーション能力を問うているのか、まずそこをしっかりと見定めるべきではないかということです。そうした視点の転換から今の教育の在り方を変えることができるのではないかと考えています。

■ 日本で初めてセーラー服を導入した学校

まずは本学についてご紹介します。

福岡女学院は、1885（明治18）年に米国メソジスト監督教会から派遣されたジェニー・M・ギールによって創立された英和女学校に始まります。以来、教育分野の裾野を広げ、幼稚園から中学校、高等学校、短期大学、大学・大学院、看護大学、生涯学習センターまでを擁する総合学園に発展しました。現在、園児・生徒・学生の総数は4,310人。全国的には、1921（大正10）年に日本で初めてセーラー服を導入した学校として知られており、テレビなどで

よく取り上げられます（資料1）。

大学は、「人文学部」（現代文化学科・言語芸術学科・メディア・コミュニケーション学科）、「人間関係学部」（心理学科・子ども発達学科）、「国際キャリア学部」（国際英語学科・国際キャリア学科）の3学部7学科で、短期大学部は英語科、大学院は人文科学研究科からなっています。

（資料1）日本で初めて導入したセーラー服



■ 2014年に「国際キャリア学部」を開設

TOEIC Programを使い始めたのは2001年、全学の英語教育を担う「英語教育研究センター」を設置したときからです。2007年には、大学1年次の英語プログラムを全て変更。英語教育研究センターの管轄のもとで英語教育専門の教員が教えるプログラム

に改編しました。同時に、プレイスメントテストおよびアチーブメントテストとして実施していたTOEIC Bridge® IPテストの対象を、一部の学生から大学1年生全員(定員560人)に拡大しました。

また、2003年、人文学部に英語学科(40人)を開設。同学科が成功したため、その発展形として、2014年に女性のグローバル人材育成を目標とした「国際キャリア学部」を立ち上げました(現在、国際英語学科60人・国際キャリア学科80人)。カリキュラムは、総合部門がスキル科目とゼミ科目。専門部門は学科の専門科目から成りできるだけ英語を使って指導しています。留学部門は長期と短期があり、長期留学は1学期間・2学期間、短期留学は5週間となっています。

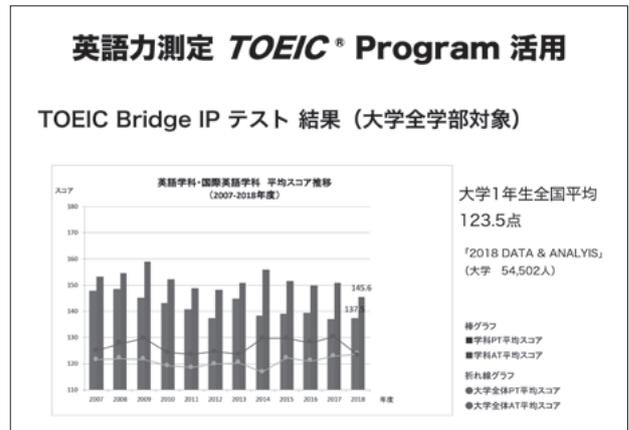
同学部では、2学科の1年生～4年生(定員560人)が毎年1回TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC® L&R)を受験して英語力向上の推移を確認しています。国際英語学科は人文学部の英語学科が発展したものなので、2003年度からデータ分析を継続しています。

■ 国際英語学科1年生の平均はTOEIC Bridge 137点から145点に

右上のグラフは、大学全学部と国際キャリア学部国際英語学科の1年生を対象としたTOEIC Bridge IPテストの結果です。成績は良くも悪くもないといったところです。棒グラフが国際英語学科で、2018年度の1年生は、プレイスメントテスト平均が137点、アチーブメントテストが平均145点でした。

折れ線グラフは下が大学全体のプレイスメントテストの平均で、上がアチーブメントテストの平均です。こちらも少しずつ上がっています。2018年度だけはプレイスメントとアチーブメントがほぼ同じスコアになっていますが、理由は分かりません(資料2)。

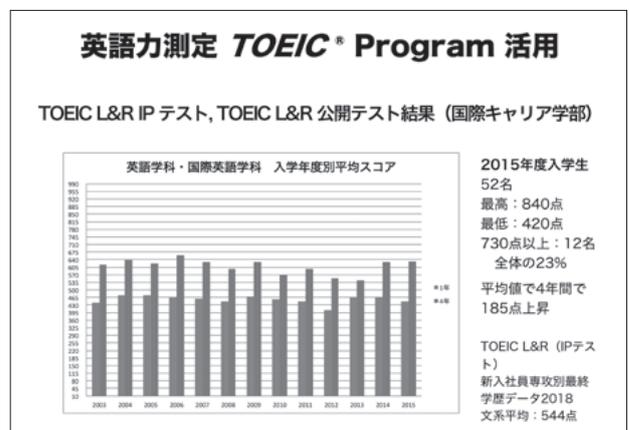
(資料2)



■ TOEIC® L&Rは4年間で平均185点アップ

下のグラフは、国際英語学科の学生の1年次と4年次のTOEIC L&R IPテストと公開テストの結果です。棒グラフの左側が1年次の平均点、右側が4年次の平均点です。2015年度入学生(52人)の最高点は840点、最低点は420点、平均は630点で730点以上は全体の23%(12人)でした。4年間で185点ほど上がっていますが、まだまだ低い。全国的に見た新入社員文系平均の544点に比べると高いのですが、もっと頑張らなければならないと思っています(資料3)。

(資料3)



■ 国際キャリア学部のTOEIC® L&Rの目標スコアは730点以上

国際キャリア学部のTOEIC L&Rの目標スコアは730点以上です。IIBCのデータによると企業の海外部門の平均が679点※とあります。また、文部科学省が中学高校の英語科教員に求める英語力の目安がTOEIC L&Rでは730点なので、これらを基準にしています。

さらに、国際英語学科の教職課程履習者には3年次末までに600点以上を取らなければ教育実習が履習できないというルールも作っています。この時期までに600点が取れない学生を教育現場に立たせるわけにはいきません。

授業では、学生たちがCommunicativeな英語指導ができるように、英語科教育法のIとIIで英語教育に関する理論指導を、IIIとIVで徹底した実践指導を行っています。実践指導では、全員に20分の模擬授業を課しています。模擬授業はビデオで撮り、学生はそのビデオを見て自分の授業を分析し、レポートにまとめます。自分の姿を客観的に見る振り返り作業は効果があります。

※「TOEICテストDATA&ANALYSIS 2014」

■ 学生を3つのタイプに分けて個別指導

次は個別指導についてご紹介します。

個別指導を始めたのにはきっかけがあります。以前、私は学科長や学部長として全体的なプログラムをつくり、あとは学生たちに頑張ってもらおうというやり方をとっていました。

しかし、学生たちの様子を見ていて、これではダメだと感じ始めたのです。その1つは、いくら勉強してもTOEIC Programのスコアが伸びない学生がいること。もう1つは、しっかり英語が使えるのにスコアが低い学生がいることです。授業では立派なプレゼンテーションをするし、英語のライティングも悪くない。とこ

ろがスコアが低く、600点に届かないのです。

これはなぜだろうと考えました。あくまで主観ですが、スコアの高い学生は授業においても飲み込みが早く論点をつかむ認知能力、機転を利かせて行動する力に長けています。こうした個人差に対応するためには個々に応じた指導が必要であることを再認識しました。

そこで、学生たちを3つのタイプに分けました。タイプ1はスコアが低く、かつ英語力がない学生です。これは個々に勉強してもらうしかありません。なぜなら、単語を覚えなければ何も始まらないからです。まず基礎力をつけるように指導します。

タイプ2はスコアは低いものの、潜在的に能力を持っている学生です。こうしたタイプの学生はゆっくり時間を掛ければ、メモを見ずに立派にプレゼンテーションできる力を持っています。こうした学生には情報処理スピードを上げる訓練が効果的です。タイプ3は、学習意欲があり、ある程度のスコアは取れるものの、高いスコアまでは取れていない学生です。

タイプ2とタイプ3の学生に対しては、スコアシート(公式認定証)を使って弱点や問題点を分析し、具体的な学習アドバイスをしています。

■ 公式認定証を活用した効果的な個別指導

公式認定証は、上段に総合スコアとリスニングスコア、リーディングスコアが記載され、リスニングとリーディングがそれぞれ上位何%の位置にいるか分かります。中段にはスコアレンジに応じたScore Descriptors(レベル別評価)が表示されています(資料4)。

最も大事なものは、下段のAbilities Measured(項目別正答率)です。リスニングの左欄には「短い会話で基本的な文脈を推測できる」「長めの会話で基本的な文脈を推測できる」「短い会話で詳細を理解できる」など5項目があり、右欄にはそれに対応する個人の正答率と全体平均が記載されます。

同じようにリーディングの左欄にも、「文中の情報をもとに推測できる」「文中の具体的な情報を見つけて

理解できる」「語彙が理解できる」など5項目があり、右欄には個人の正答率と全体平均が記載されます。

このシートを使って学生と話をします。例えば、実際にどんな単語帳を使っているのか、単語帳はどのように使っているのか、今使っている単語帳は何周ぐらいいやったのかという話から、個々の評価項目のスコア分析、学習アドバイスをします。

(資料 4)



■ CDを聞きながらシャドーイングを繰り返す

ここで2つのケーススタディをご紹介します。

ケース1は国際英語学科の4年生です。留学経験はありません。問題点は語彙力と文法力が弱く、情報処理のスピードが遅いことです。そのため、まずは語彙力と文法力を付けるように指導しました。

第2段階の取り組みは、リスニングスクリプトの暗記・音読・シャドーイングです。これは思った以上に効果的です。リスニングのパート3(会話のやり取り)とパート4(説明文の問題、モノローグ)からスクリプトを1つ選び、内容を確認して丸暗記し、CDを聞きながらシャ

ドーイングを繰り返すようにしました。

処理能力が弱い学生は読むスピードが1分間に100ワードほどしかない場合があります。しかし実際の会話、例えばBBCのNewsreaderは1分間に約180ワードのスピードでニュースを読んでいます。TOEIC L&Rもほぼ同じスピードです。一般的に読むスピードは話すスピードより速いと言われています。つまり情報処理スピードが上がらなければ、問題を解き終えることはできないのです。

リーディングのスピードを速くするためには、リスニングスクリプトを丸暗記し、CDを聞きながらシャドーイングを繰り返すことです。そうすれば、スピード処理に慣れてきます。単語さえしっかり頭に入っていれば、文を読んだり、聞いたりできるようになります。こうした訓練を徹底して行うように指導しました。

■ 4か月でスコアが570点から710点にアップ

その結果、2019年1月の時点でTOEIC L&Rが570点だったのが、2か月後の3月には690点に上がりました。下の図を見ると語彙力が上がっており、それに伴いリスニングも全体的に上がっています。さらに2か月後の5

月には710点を獲得。長めのリスニングは若干スコアが落ちますが、短いものはほとんど解けるようになりました。リーディングについては、まだ未解答の問題があるようですが、Factualな質問に対する答えはかなり伸びています。本人も710点を取ったので、だいぶ自信が付いたようです。今後は、さらに情報処理力を上げ、全問を解けるスピードを付けさせたいと思っています。

[ケース1]

① 2019年1月 トータルスコア 570(L335/R235)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED	ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	75 ▲64	文章の中の情報をもとに推測できる	66 ▲55
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	58 ▲65	文章の中の具体的な情報を基けて理解できる	60 ▲54
短い会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	80 ▲77	ひとつの文章の中では複数の文書間で与えられた情報を関連付けることができる	52 ▲54
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	70 ▲64	図表が理解できる	38 ▲59
フレーズや文から話し手の目的や暗示されている意味が理解できる	67 ▲52	文法が理解できる	60 ▲64

(Listening335)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	75 ▲64
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	58 ▲65
短い会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	80 ▲77
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	70 ▲64
フレーズや文から話し手の目的や暗示されている意味が理解できる	67 ▲52

③ 2019年5月 トータルスコア 710(L385/R325)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED	ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	87 ▲73	文章の中の情報をもとに推測できる	48 ▲49
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	71 ▲69	文章の中の具体的な情報を基けて理解できる	69 ▲56
短い会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	93 ▲82	ひとつの文章の中では複数の文書間で与えられた情報を関連付けることができる	61 ▲51
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	85 ▲72	図表が理解できる	71 ▲63
フレーズや文から話し手の目的や暗示されている意味が理解できる	79 ▲64	文法が理解できる	66 ▲56

(Listening385)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	87 ▲73
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	71 ▲69
短い会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	93 ▲82
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	85 ▲72
フレーズや文から話し手の目的や暗示されている意味が理解できる	79 ▲64

② 2019年3月 トータルスコア 690(L395/R295)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED	ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	73 ▲65	文章の中の情報をもとに推測できる	64 ▲50
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる	62 ▲66	文章の中の具体的な情報を基けて理解できる	67 ▲53
短い会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	88 ▲76	ひとつの文章の中では複数の文書間で与えられた情報を関連付けることができる	59 ▲52
長めの会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる	81 ▲68	図表が理解できる	65 ▲55
フレーズや文から話し手の目的や暗示されている意味が理解できる	60 ▲55	文法が理解できる	46 ▲61

2つ目のケースは、留学経験のある3年生です。この学生は1年次の7月に460点、2年次に1学期間留学し、8月に帰ってきてから指導を始めました。まずは、問題点であった語彙力とリスニング力、情報処理スピードを向上させるため、集中的に語彙力を高めながら、リスニングスクリプト暗記・音読・シャドーイングを行うとともに、速読の理解力を伸ばし、解答の

精度を上げることに取り組みました。その結果、9か月後の翌年5月には775点というスコアを出しました。

[ケース2]

① 2017年7月 トータルスコア 460(L235/R225)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED	ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い音読、アタラシ、フレーズ単位の中で情報に述べられている情報をもとに要約、目的、基本的な文脈を推察できる	56 ▲67	文書の中の情報をもとに推測できる	66 ▲55
長めの音読、アタラシ、フレーズ単位の中で情報に述べられている情報をもとに要約、目的、基本的な文脈を推察できる	45 ▲59	文書の中の具体的な情報を見つけて理解できる	66 ▲54
短い音読、アタラシ、フレーズ単位において詳細が理解できる	60 ▲71	ひとつの文書の中でまたは複数の文書間でちりばめられた情報を関連付けることができる	52 ▲54
長めの音読、アタラシ、フレーズ単位において詳細が理解できる	48 ▲52	語彙が理解できる	38 ▲59
ブレイズや文から話し手の目的や暗喩されている意味が理解できる	60 ▲59	文法が理解できる	60 ▲64

(Reading225)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
文書の中の情報をもとに推測できる	46 ▲55
文書の中の具体的な情報を見つけて理解できる	68 ▲54
ひとつの文書の中でまたは複数の文書間でちりばめられた情報を関連付けることができる	52 ▲54
語彙が理解できる	38 ▲59
文法が理解できる	60 ▲64

③ 2019年5月 トータルスコア 775(L385/R390)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED	ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い音読、アタラシ、フレーズ単位の中で情報に述べられている情報をもとに要約、目的、基本的な文脈を推察できる	100 ▲73	文書の中の情報をもとに推測できる	76 ▲49
長めの音読、アタラシ、フレーズ単位の中で情報に述べられている情報をもとに要約、目的、基本的な文脈を推察できる	76 ▲59	文書の中の具体的な情報を見つけて理解できる	88 ▲56
短い音読、アタラシ、フレーズ単位において詳細が理解できる	83 ▲52	ひとつの文書の中でまたは複数の文書間でちりばめられた情報を関連付けることができる	78 ▲51
長めの音読、アタラシ、フレーズ単位において詳細が理解できる	78 ▲72	語彙が理解できる	75 ▲68
ブレイズや文から話し手の目的や暗喩されている意味が理解できる	86 ▲64	文法が理解できる	75 ▲56

(Reading390)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
文書の中の情報をもとに推測できる	76 ▲49
文書の中の具体的な情報を見つけて理解できる	88 ▲56
ひとつの文書の中でまたは複数の文書間でちりばめられた情報を関連付けることができる	78 ▲51
語彙が理解できる	75 ▲68
文法が理解できる	75 ▲56

② 2018年10月 トータルスコア 705(L360/R345)

ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED	ABILITIES MEASURED	PERCENT CORRECT OF ABILITIES MEASURED
短い音読、アタラシ、フレーズ単位の中で情報に述べられている情報をもとに要約、目的、基本的な文脈を推察できる	69 ▲65	文書の中の情報をもとに推測できる	78 ▲50
長めの音読、アタラシ、フレーズ単位の中で情報に述べられている情報をもとに要約、目的、基本的な文脈を推察できる	70 ▲70	文書の中の具体的な情報を見つけて理解できる	69 ▲55
短い音読、アタラシ、フレーズ単位において詳細が理解できる	87 ▲70	ひとつの文書の中でまたは複数の文書間でちりばめられた情報を関連付けることができる	62 ▲51
長めの音読、アタラシ、フレーズ単位において詳細が理解できる	80 ▲69	語彙が理解できる	61 ▲54
ブレイズや文から話し手の目的や暗喩されている意味が理解できる	85 ▲66	文法が理解できる	61 ▲59

■ TOEIC® Programを指導者の立場から見る

次期学習指導要領では、中・高の英語授業は基本的に英語で行うことになりました。本年2月に、現場の先生を対象に教室談話に関する科研費調査を行い、「教員養成」「教員意識」「授業実践」「生徒の反応」の4項目についてアンケート調査を実施しました。調査対象は中学校100校(回収64人)、高校150校(回収84人)です。

設問は、大学でインタラクティブな指導法を受講したことがあるか。教員の意識として英語で授業をしたり、インタラクティブな授業をすることに、どのように考えているか。また、どのように実践しているか。インタラクティブな授業に対する生徒の反応はどうかについてです。

その結果、多くの先生方がインタラクション(教室談話)は大切である、生徒のモチベーションを高めることにつながると考えていることが分かりました。ただし教室内でどのようなインタラクションをすればよいのか分からないという問題点が見えてきました。文科省も英語で授業を行うことを求めています、どのような英語授業が有効なのか検証が不十分です。

そこで私は、TOEIC Programに対する視点を受験者の立場から指導者の立場に変えてTOEIC Programが測ろうとするコミュニケーション能力がどのようなものを把握することを試みました。それにより、どのように英語の授業をすればよいのかが見えてくるのではないかと考えました。

■ 学習者には推測を促す表現で対応することが必要

その答えの1つが公式問題集の活用です。こちらはリスニングの問題例です(資料5)。

この会話では、By the way, I'm about to take a representative out to lunch. Care to join us? と

いう誘いがあり、それに対して、My business plan for next quarter is due in two hours. I just got started on it yesterday. と答えています。ここで重要なのは、この返答が誘いを断る表現であると認識することです。

日本の英語教育では、このような誘いに対して、Oh, I would love to, but I have to work this afternoon, because…といった直接的な表現を教えることが多く、間接的な表現をもとに推論を働かせて正しい解釈に導く学習が不十分です。こうした問題を克服するためには、教師が意識的に学習者に推測を促す表現を使うことが効果的です。

(資料5)

公式問題集から学ぶ

37. Why does the man say, "My business plan for next quarter is due in two hours"?

"By the way, I'm about to take a representative from Garland Chemistry, our new client, out to lunch. Care to join us?"

"My business plan for next quarter is due in two hours. I just got started on it yesterday."

※質問の答えは直接表現されていない。

※誘いを断る表現として推測する→Paraphrase(言い替え)

■ 意味を文脈の中に落とし込む

もう1つの例はリーディングです(資料6)。Hendricksという人がどんなビジネスに就いているのか問う質問です。文章の中には、demand for some of the publications we produceや、schedule regular paper deliveriesという表現がありますが、この単語の意味を文脈の中で瞬時に理解しなければなりません。Publicationは、普通、出版社などを連想します。Deliveryは、何かを配達する。この場合は、印刷会社なので、紙の納入を指しています。単語にはいろいろな意味がありますが、文脈の中に落とし込み、どの意味で使われているのかを瞬時に理解することが

重要です。ただ機械的に単語を覚えるだけでは正しい理解に至りません。

(資料 6)

Dear Mr. Dembinsky,

Over the last five years we have been placing bulk orders with you on a largely intermittent basis. Recently, demand for some of the publications we produce has increased, and we would therefore like to schedule regular paper deliveries in larger amounts. Would you be prepared to offer us a discount in exchange for a multiyear commitment? At this point we are able to guarantee a minimum monthly order for two years, if a satisfactory rate can be agreed upon. Please contact me by October 9 if this possibility interests you.

With best wishes,

Kristen Hendriks
Tisken and Dodge

155. Ms. Hendriks is most likely employed by what type of business?
(A) A newsstand
(B) A book distributor
(C) A printing company
(D) A stationery supplier

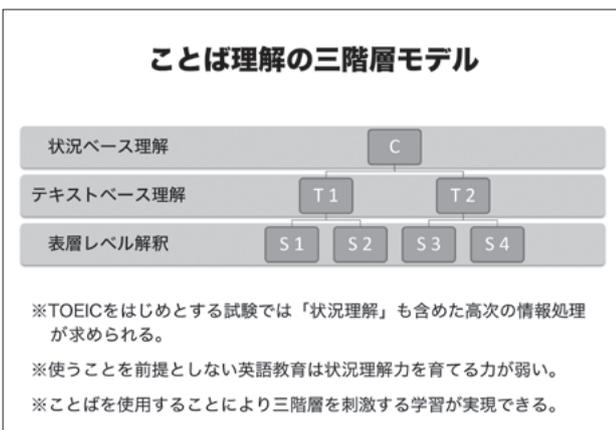
■ ことば理解の三階層モデル

そこで、人間の理解のメカニズムである「ことば理解の三階層モデル」をご紹介します。表層レベル解釈から、テキストベース理解、状況ベース理解へと進む三階層の構造です（資料7）。

下段の表層レベル解釈は単語の羅列と考えてください。音読はこのレベルで強制的に言葉を拾っていくのに役立ちます。そして次の段階では、文単位で意味を理解します。これがテキストベース理解です。文法訳読式はこのレベルの学習といえるでしょう。

ただし、これだけでは真の理解には至りません。言

(資料 7)



葉はあくまでもスキーマです。正しい理解をするためには、文脈を通して状況を想い浮かべる力が必要です。

例えば、「遅刻したAさんが走ってやってくる」と聞いたとき、「走っている」という言葉に、誰も100 m走のボルト選手が走っている状況を想像しません。Aさんが走ってきている状況を具体的に想像します。それが状況ベース理解です。ですから、文脈に落として言葉を理解させるトレーニングを続けることが必要で、そうすれば正しい理解に至るようになるでしょう。TOEIC Programは状況ベース理解を含めた高次の情報処理を求めており英語力向上に非常に効果的であると考えます。

■ これからもTOEIC® Programの活用法を研究する

私が英語教育で常に心掛けているのは、学習者の文脈に落とし込んでいくことです。そのためには、日本の教科書はテーマが少し難しいかもしれません。まず易しい文脈、例えば「うそをつくのはいいこと？ 悪いこと？」のように、誰もが意見を言えるようなテーマを通して何でも好きなことを言える環境をつくるのが大切です。

繰り返しになりますが、コミュニケーション力を育成するためには「TOEIC Programを受験者の立場だけから考えるのではなく、TOEIC Programがどのような力をコミュニケーション力と考えているのか指導者がまず把握して、それを教育の中に活かしていきましょう」ということです。そうしたTOEIC Programの活用の仕方を、これからも研究していきたいと考えています。

質疑応答

Q 国際キャリア学部では、グローバル人材をどのように定義付けされているのでしょうか。

A 本学部では、アドミッション・ポリシーとして『グローバル人材育成』を教育目標にし、将来『女性のリーダー』として世界で活躍できる人材を育成します。この目標を達成するために、高度な英語力と批判的思考力、さらに答えのない問題に果敢に挑戦するスピリッツを求めます」を掲げています。ただし私は、グローバル人材というものはなく、全てがローカル人材であると思っています。人は自分が所属するローカルがあり、その価値観を持っています。世界からいろいろな人が集まっても、個人個人はみんなローカルを背負っているわけです。その相違点を認め、理解し、協力しあう、あるいは一緒に仕事をする。その力がグローバルだと思います。その力をどのように付けることができるかと言えば、やはり教養を高めるしかないと思っています。

Q グローバルに活躍するには、TOEIC® L&Rスコアでどれくらいの英語力が必要だと考えていますか。

A 国際キャリア学部では、TOEIC L&R730点以上という目標を挙げています。ただし、満点を取っても十分だとは思っていません。つまり、テストが測る対象は、語彙力や情報処理力などの言語能力です。それ以外の能力は測っていません。ですから、何点取ったかということと、グローバル人材として活躍できるかというのはあまり関係ないことだと思っています。

Q さまざまな実践の場面で英語を使えるようになるために、有効だと考えている教授法や学習法はあるのでしょうか。

A 基本的には外国語教授法として知られるCLA (Communicative Language Approach) で十分だと思っています。最近CLIL (Content and

Language Integrated Learning) が注目されていますが、教えるのが難しい。また、学習者の準備や動機付けが必要です。CLILを受ける準備ができていない対象者には効果的ですが、そうでなければCommunicativeな指導法の方が成果が上がるのではないかと考えています。

北九州市立大学における グローバル人材の育成に向けた取り組み

— 北方キャンパスにおける新グローバルプログラムの展開と国際環境工学部におけるTOEIC® L&R目標達成までの道のり —

北九州市立大学 副学長
国際教育交流センター長 **二宮 正人** 氏

同大学 基盤教育センター
教授(国際環境工学部担当) **柏木 哲也** 氏

同大学 基盤教育センター
准教授(国際環境工学部担当) **岡本 清美** 氏



二宮 正人 氏

柏木 哲也 氏

岡本 清美 氏

北方キャンパスにおける新グローバルプログラムの展開

北九州市立大学 副学長 国際教育交流センター長

二宮 正人 氏

■「世界(地球)とつながる」を未来のビジョンとして

北九州市立大学は、1946（昭和21）年に小倉外語専門学校としてスタートした大学です。当初から英語との関わりが強く、「戦後は武器を言葉に持ち替え、話し合いを通じ平和な新しい世界をつくっていこう」という理念で創立されています。

その後、昭和の時代に、外国語学部、経済学部、文学部、法学部を北方キャンパスに開設。平成に入ってから、ひびきのキャンパスに国際環境工学部を、北方キャンパスに地域創生学群を開設するとともに、社会システム研究科やマネジメント研究科等の大学院を開設し、5学部1学群4研究科を擁する総合大学となっています。

創立70周年時には、未来に向けたビジョンの1つとして「世界(地球)とつながる」を掲げ、学生をグローバルな社会の中にどう送り出していくかに取り組んでいます。大学卒業から100歳までの長い人生に向けて、

大学の4年間でどんな力を身に付けるのか、どのように外に羽ばたいていくのか、まず、その“気づき”を学生に持ってもらうことに努めています。

■英米学科は4年連続730点以上が7割以上に

具体的なミッションとしては2つあります。「グローバルリーダーの育成」と「日本社会の変化に対応できる英語力の全学的な養成」です。

本学では、2008年からの第1期中期計画の中で、具体的な英語力の到達目標と数値目標を設定しました。2年次終了時までにはTOEIC® Listening & Reading Test（以下、TOEIC® L&R）で470点以

（資料1）

中期計画における英語力の到達目標と数値目標①

第1期中期計画後半期間(2008～)に数値目標設定
第2期中期計画(2011-2016)からひびきのCも参加
第3期中期計画(2017-2022)・・・

2年次終了時、TOEIC L&R 470点以上到達者の割合

日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができるレベル

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
全学	-	-	-	47.4%	47.2%	46.1%	49.6%	50.0%	50.7%	51.4%	54.8%
北方	54.6%	54.9%	54.8%	56.7%	54.4%	51.3%	52.3%	51.5%	51.5%	53.6%	55.5%
ひびきの	-	-	-	8.0%	17.9%	26.0%	38.8%	44.5%	47.5%	42.1%	51.5%

上を半数の学生が取ることで、この470点という数値は、日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内で業務上のコミュニケーションができるミニマムスタンダードと考えています（資料1）。

北方キャンパスでは、スタートの2008年から現在まで目標達成者が連続して5割を超え、全学でも2015年より連続して5割を超えています。また、英語のリーディング学部と位置付けられている外国語学部の英米学科では、2015年以降、730点以上という目標に7割以上の学生が達しています（資料2）。

（資料2）

中期計画における英語力の到達目標と数値目標②											
卒業時、TOEIC L&R 730点*以上到達者の割合（英米学科）											
どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているレベル											
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
英米学科	(12.0%)	(29.6%)	44.6%	20.6%	41.0%	59.0%	54.5%	70.0%	71.8%	78.0%	76.1%

* 2008-2010: TOEFL → PBT350で測定、数値は2007年度入学生の実績、2011は、総数率31.8%の中核。

ただし、市の法人評価委員会からは、ひびきのキャンパスは着実に成果が上がっているものの、北方キャンパスは数値が横ばいであり、今後のさらなる改善が期待され、また「目標点数の見直しなども検討されたい」という意見も出ています。

■ グローバル人材育成を目指した新しい教育組織の整備

2017年からスタートした第3期中期計画では、文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（2013-16）」と連携し進めてきたグローバル人材育成推進事業「KGP（Kitakyushu Global Pioneers）」を発展的に解消・展開するために、外国語学部等の教育体制をどう見直すかが課題でした。そこで、高度な英語運用能力、世界の文化・宗教・民族などの多様性理解、グローバル化する経済・ビジネス、地球規模での環境問題などのさまざまな分野にわたる理解を基礎に、グローバル社会の諸問題に対応できる人材を育成するための新しい教育組織の整備

が求められました。

KGPでは、副専攻プログラムのGEP（Global Education Program）の中で、ビジネスを中心に勉強するGBC（Global Business Course）と、多様な社会・文化を中心に勉強するGSC（Global Studies Course）を設定するとともに、この2つのコースとTOEIC L&Rを関連付けていました。

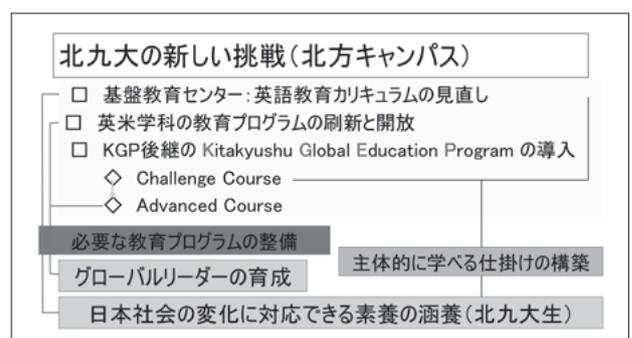
目標はGBCで800点以上、GSCで730点以上を取る学生の数を合計250人と想定していましたが、実際は113人（外国語学部83人、文学部17人、法学部2人、経済学部11人）という結果となりました。また、600点以上を取る学生を410人とみていましたが、結果は290人と、数値目標の多くが達成できませんでした。

■ 北方キャンパスの新しい挑戦

そこで北方キャンパスでは、全学の英語教育を担う基盤教育センターで英語教育カリキュラムの見直しを行うとともに、英米学科の教育プログラムの刷新と他学部・他学科への開放に取り組んでいます。また、グローバル人材の育成プログラム「Kitakyushu Global Pioneers」の後継として、新たに「KGEP（Kitakyushu Global Education Program）」を導入し、Challenge コースとAdvanced コースの2つのコースを設定しました（資料3）。

基本的な理念は変わっていません。「グローバルリーダーの育成」と「日本社会の変化に対応できる素養の涵養」です。外国人が上司や部下になる、あるいは外

（資料3）



国人と一緒に何かをする。そうした将来に向けて、どのような力を付けていくかを学んでもらおうという試みです。

しかし、補助事業も終わり予算がかなり限られているため、これまでと同じような資源の集中はできない状況にあります。そのため、「主体的に学ぶ」ことを主眼に置き、自分が本当に英語を学ぶことが必要だと感じられるプログラムづくりに取り組んでいます。

■ TOEIC® L&Rで学習の動機づけを強化

まず、基盤教育センターでは、TOEIC L&Rで学習の動機づけを強化するため、2年次にレベル別の新クラス編成を導入しました。

2018年度の入学生まで1年次は英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各1単位、必修)、2年次は英語Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ(各1単位、必修)でした。2019年度の入学生からは1年次にCommunicative English Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各1単位)を受講しますが、TOEIC 4技能にフォーカスした授業内容になっています。

2年次はCommunicative English Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ(各1単位)とIntermediate English Ⅰ・Ⅱ(各2単位)の選択必修となっています。

これにより、1年次末までに470点以上を取っていれば、2単位型の授業を選択することができ、1コマ空いた時間を大学生活の中で有効に使えるようになりました。1年次末時点で数値目標をクリアする学生が増えることが期待されます。

■ 英語で行う授業を専門科目で7割以上を目標に

英米学科の教育プログラムの刷新では、グローバルリーダーの育成やプログラムの海外留学生への開放、他学科・他学部への開放を目指し、定員を110人から135人に増やすとともに、グローバルビジネス系の

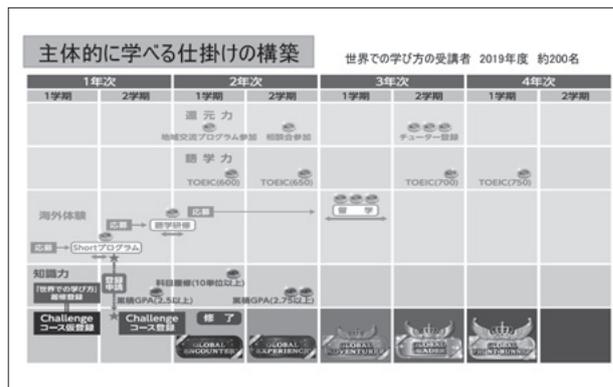
教員を新たに5人採用することになっています。また、英語集中プログラムを採用し、卒業時までTOEIC L&R 730点以上を目標に掲げ、2年次までに高度な英語運用能力を付けるとともに、さまざまな留学支援を行って、さらなるステップアップを目指しています。さらに、英語で行う授業を専門科目で7割以上にするにも取り組んでいます。

また、英米学科で培った資源の他学科・他学部への開放として、「英米学科以外の学生向けプログラム」を導入しています。その1つがKGEPのAdvancedコースで、2年次から他学科・他学部の学生も英米学科の授業科目を取れるようにしました。稀少性を高めるために、まずは10人程度から始めています。

■ 遊びや楽しさの要素を入れた仕掛けづくり

同時に、「学ぶことの意義を考えながら、自発的に行動してもらうこと」を目的に、全ての学生を対象として、遊びや楽しさの要素を入れた仕掛け、Challengeコースをつくりました。「還元力」「語学力」「海外体験」「知識力」という4つの力を設定し、その力を自分のニーズに応じて伸ばしていくプログラムです。海外の学生との交流をメインとしたもので、今年は約200人の学生が参加しています(資料4)。

特徴は、4つの力がアップした評価として、それぞれに最大7つずつのメダルがもらえることです。例えば、「語学力」ではTOEICスコア50点刻みでメダルが増え(資料4)



ていきます。

終了すれば、5段階の修了証書や学生活動実績認定シートも付与されます。こうしたクエスト方式やステップアップ手法を取り入れることによって興味を持続してもらおうようにしています。

学生が英語を学ぼうとする動機は、多くの場合、いろいろな人とコミュニケーションを取りたいとか、世界に目を向けたいとか、海外の友達が欲しいということです。そうした目的を自分の中でしっかり意識付けて、やる気を引き出し、楽しみながら勉強しようというのがこのシステムの狙いです。水飲み場までは馬を連れていってあげることはできますが、無理やり水を飲ますことはできません。水を飲んでもらうには、何らかの仕掛けが必要だということです。

今回の新グローバルプログラムでは、基幹項目として「世界の学び方(プログラム必修)」という授業科目を置き、英語を学ぶことの意味、海外に行くことの意味を学生にしっかり理解してもらい、自発的・自律的な学びにつなげていくことを目指しました。

4年後に、この改革がどんな形で成果に現れるのか、どのような数字に表れるのか。それをご紹介する機会に恵まれれば幸いです。続いて、ひびきのキャンパスの国際環境工学部におけるTOEIC L&R目標達成までの道のりについてご紹介します。

国際環境工学部におけるTOEIC® L&R 目標達成までの道のり

北九州市立大学 基盤教育センター 教授(国際環境工学部担当)

柏木 哲也 氏

■ 2年次修了時に470点の到達者5割以上 を目指して

国際環境工学部は、当時注目されていた「国際」と「環境」をネーミングに入れ、コミュニケーションとICT教育を2本柱に設立されました。この20年間でアジア広域からの留学生が大学、特に大学院に多く入っ

てきており、学生の質も大きく様変わりしています。今、学食に行けば、多くの学生がいろいろな言語で会話しており、国際環境のニュアンスも当時とだいぶ変わってきています。

英語教育においては、国際環境工学部で独自のカリキュラムをつくって取り組んでいます。ここからは、その内容についてご紹介します。

2011年度から始まった第2期中期計画では、全学的な取り組みとして、英語教育の実績を可視化するために外部テストを活用することになりました。国際環境工学部でもTOEIC L&Rを導入し、2年次修了時に470点の到達者の割合を5割以上にする目標を設定しました。

■ TOEICテストの問題演習に特化した授業 を組み込む

そのためカリキュラムを改編し、1年次の必修科目に英語演習Ⅰ(1学期)と英語演習Ⅱ(2学期)、プレゼンテーションⅠ(1学期)とプレゼンテーションⅡ(2学期)の4科目を設定して、TOEIC L&Rの問題演習に特化した授業を週に1コマ組み込みました。プレゼンテーションⅠとⅡは、本学部設立のコンセプトであるコミュニケーション能力の育成、つまりアウトプット教育に重点を置いた授業です(資料5)。

よく言われるように、理系学生は言語の読み書きに関する興味や関心があまり高くはありません。英語を(資料5)

3.1 必修科目(1年次)

科目名	年次	学期
英語演習Ⅰ	1	1
英語演習Ⅱ	1	2
プレゼンテーションⅠ	1	1
プレゼンテーションⅡ	1	2

苦手にする学生も多いです。そのため私は、声を出して読むこと、そしてどこに切れ目を置いて読むか（ポーズ）に重点を置いて指導しています。

プレゼンテーションでは、ペアやグループで行うのが有効です。集団で行うと、学生たちは喜んで英語に取り組みます。1人だと飽きてしまいやすいのですが、生き生きとして授業を受けています。

■条件に達しなかった学生には「補習教育」を強制

2年次は選択必修科目Aと選択必修科目群Bの2つをつくりました。Aは科学技術英語Ⅰ・ⅡとTOEICⅠ・Ⅱの4科目で、BはDiscussion and Debateなど8科目です（資料6.7）。

（資料6）

3.2.1 選択必修科目A		
科目名	年次	学期
科学技術英語Ⅰ※	2	1
科学技術英語Ⅱ※	2	2
TOEICⅠ	2	1
TOEICⅡ	2	2

※受講にはTOEIC L&Rで470点以上が必要

（資料7）

3.2.2 選択必修科目群 B		
科目名	年次	学期
Discussion and Debate	2	1
English Presentation	2	2
Scientific R/WⅠ	2	1
Scientific R/WⅡ	2	2
Basic R/WⅠ	2	1
Basic R/WⅡ	2	2
English Communication	2	1
Extensive Reading	2	2

選択必修科目Aの科学技術英語Ⅰ・Ⅱは、TOEIC L&Rで470点以上が必要という受講条件を設けています。条件に達しなかった学生はTOEICⅠ・Ⅱに回るとともに、「補習」（後述）の対象となります。

選択必修科目群Bは、上からTOEIC L&Rスコアの高い順に学生を割り振っています。選択必修科目群と名付けてはいますが、学生が選ぶのではなく、学校側で決めています。

なお、2年次の選択必修科目は、当該年度に受験したTOEICテストのスコアで調整点を決め、学期成績の評価に反映させています。当初、不受験の場合はマイナス10点、受験した場合は0点～プラス10点としていましたが、不受験でマイナス10点は厳し過ぎるという意見が出たため、現在では不受験の場合は0点（調整なし）にしています。

また、選択科目は、TOEICテストをもっと練習したいという1年次の学生向けに、TOEIC基礎（前期）とTOEIC応用（後期）を設けているほか、1年次にIntensive English Course（夏期集中）、3年次にAcademic Writing（1学期）、Topic Studies A～D（2学期）を設けています（資料8）。

（資料8）

3.3 選択科目		
科目名	年次	学期
TOEIC基礎	1	1/2
TOEIC応用	1	1/2
Intensive English Course	1	夏期集中
Academic Writing	3	1
Topic Studies A～D	3	2

■TOEIC® L&Rを成績評価の割合の50%に設定

英語教育の評価については、TOEICテストのスコアや小テスト・課題の結果などを基準に行っています。例えば、英語演習Ⅰ・Ⅱの場合は、評価の割合を

TOEIC L&R 50%、小テスト・課題30%、課題(eラーニング)20%にしています。また、欠席回数が3分の1以上の場合はG評価、授業開始から20分以上の遅刻は欠席とみなしています。eラーニングについては、学生の進捗状況を確認し、指導するという方法を取っています。

また、英語学習や留学などに関して気軽に相談できるようにするため、「英語学習支援室」を立ち上げました。関連する資料も自由に閲覧できます。当初は本学の教員が相談支援を行っていましたが、現在は語学教育の総合企業である株式会社アルク様にお願いして、週3回(月水金)4時間ずつ来ていただいています。同支援室では、留学の発表会やスピーチコンテストなどのプログラムも展開しているほか、Twitterなどを使って、さまざまな情報も発信しています。

■ 本人にとって何が有意義なのかを見極めることが重要

外部テストの実施にも問題点はあります。まず受験料です。本学は公立大学であり、さまざまな環境の学生が集まっています。中には学費を支払うのも大変な家庭状況の学生もおり、彼らに受験費用を自費で支払わせていいのか常々考えています。これについては学校側と交渉したいと思っています。

2つ目は動機付け。これをどう行つか、最も難しい問題です。3つ目は授業で外部テストを使うことに対し、誰が責任を持つのかということ。4つ目は外部テストの評価の割合を5割にしてよいのかということです。TOEIC® Programは基本的にビジネスイングリッシュ、あるいはESP(English Specific Purposes: 特定の目的のための英語)だと考えられます。そのため、大学の授業の中に組み入れてよいのかが問題になりますが、今は良い面を活かしていけばいいのではないかと思います。

5つ目が欠席者の扱い。そして6つ目は「あきらめる」学生にどう対応するかということです。学生に対し、目

の前にニンジン(報酬)をぶら下げて「頑張ればいいことがあるよ」とやるのか、「補習は大変だよ」と後ろから追い立てるのか、どちらのやり方が効果的なのか、本人にとって何が有意義なのかを見極めることが重要であると思っています。

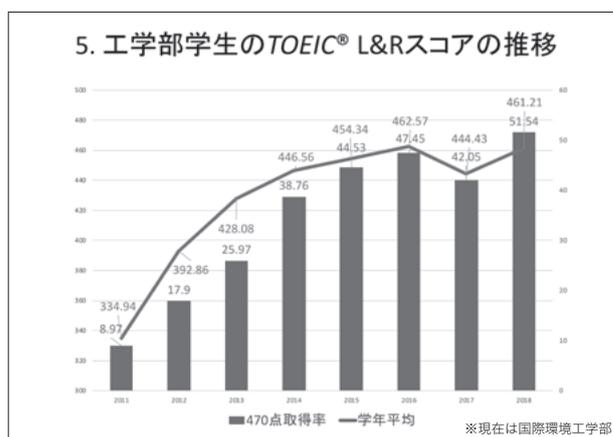
■ 非常に練習効果が高いTOEIC® L&R

下記のグラフはTOEIC L&Rスコアの推移です(資料9)。実はスタート前の2011年度前期に希望者を対象としたTOEIC L&Rを行ったところ、470点をクリアした学生はわずか6%程度でした。その年の冬に約9%、翌年が約18%、その次が約26%と順調に上がり、2016年度は約47%まで達しましたが、翌年は少し落ちました。上がり続けることはないので、反動は想定内です。個人的には、この辺りが実際の状況を反映している数字ではないかと思っています。

こうしたグラフからも、TOEIC L&Rは非常に練習効果が高いことが分かります。私もここまで達成率が上がるとは思っていませんでした。やはり何度も繰り返し演習を行えば学生は向上します。「やればできる」ということです。それを学生たちに理解してもらうことが非常に大事だと思います。

現在、国際環境工学部の定員は約270人です(北方キャンパスは約1,000人)。そのため、学生に対して目が届きやすく、コンパクトに素早く動けます。その

(資料9)



特徴を活かし、今後も学生、教員、大学、部局全体で結束して英語教育に取り組んでいきたいと思っています。

国際環境工学部における補習教育

北九州市立大学 基盤教育センター 准教授
(国際環境工学部担当)

岡本 清美 氏

■ 対面授業とeラーニングの補習教育

柏木先生が一部説明した「補習教育」について、もう少し詳しくご紹介します。

補習教育は国際環境工学部の“独自事業”です。独自事業とは、国際環境工学部が学内予算を取って、その実施を私たちが請け負っていることとご理解ください。

補習教育は、1年次末までにTOEIC L&R 470点に達しない学生に対し、強制的に授業を受けさせるというものです。今年までは2年生の1学期に行っていました。

授業の内容は、対面授業とeラーニングです。始めはブレンドド・ラーニングで行っていましたが、途中から選択と集中の形にし、上位の学生には株式会社アルク様から派遣された講師の方々に対面授業をしていただいています。他の学生については、eラーニングの教材を買ってもらい、1学期間勉強してもらっています。勉強する機会を強制的に設けましょうということです。

国際環境工学部には、英語以外にも補習科目があります。物理と数学です。英語と同じように基準に達していない学生には1年次に補習を受けてもらっています。要は高校卒業程度の学力を付けてもらおうということです。

■ 2019年度新規カリキュラムでは1年次の470点取得を推奨

2019年度の新規カリキュラムは、下の図の通りです(資料10)。8単位は変わりませんが、読み書き(R/W)のものと話す聞く(S/L)のものに分け、英語I・II・III・IV・V・VI・VIIにしています。TOEIC L&Rは実践英語の評価として使っており、470点以上を取ればこの科目から卒業できます。これは2年次の2学期まで続きますが、今年の入学生からは1年次の2学期に補習授業を設けることで、1年次末までに実践英語を卒業しようというメッセージを送っています。

(資料10)

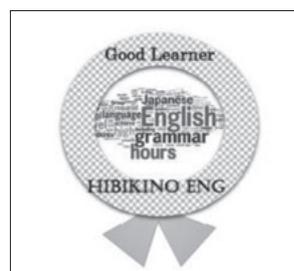
7. 令和元年からの新規カリキュラム

全科目必修

重点領域	1年次		2年次	
	1学期	2学期	1学期	2学期
R/W	英語I	英語III	英語V	
S/L	英語II	英語IV	英語VI	
ESP/EGAP				英語VII
TOEIC	実践英語		補習	

また、課外学習もコーディネートしています。その1つが、おなじみの教材である『マーフィーのケンブリッジ英文法』です。これを実践英語の副教材として、1年次の1学期から使っています。同書は他の科目でも参考書に指定しています。そして、学習のモチベーションを高めるため、教材を全てクリアした学生にはバッジを付与し、バッジの取得数に応じて、2年次2学期の英語VIIの選択を有利にできるようにしています(資料11)。

(資料11)



質疑応答

Q 貴学ではグローバル人材をどのように定義付けされているのでしょうか。

A 第1期中期計画では「地域に根差したグローバルな視点から事象を捉えることができ、国際社会で活躍できる人材」としました。第2期は「グローバルな視野を持ち、社会に貢献できる知識や言語力、実践力を伴った人材」で、第3期の現在は「グローバル化が進む社会の中で、学生自らが選択して生き抜く力を持った人材」としています。

Q グローバル人材を育成するには、英語以外にはどのような資質が必要でしょうか。

A 国際教育交流センターでは、昨年度に「キャンパスが世界」と銘打ち、留学生の受け入れの数を増やすことを決めました。そして今年、本大学で初めてショートプログラムを実施。海外の提携校から留学生を受け入れ、日本の学生と接する機会をつくりました。

英語以外に身に付ける必要がある資質は多様性に対する受容力1つだと思っています。人間は一人ひとりが違う存在です。その違いを受け入れる力、自分と違う価値観に対して寛容になれる力です。

今回のカリキュラム改編も、多様性に対する受容力をコンセプトとし、「自分は今何をしなければいけないのか」の“気づき”を持ってもらうことを目的としています。

発行月：2019年11月

発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル
TEL (03) 5521-5012

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル
TEL (052) 220-0282

大阪

〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL (06) 6258-0222

公式サイト

<https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of Educational Testing Service, Princeton, New Jersey, U.S.A., and used in Japan under license.

本書の無断転載・複製を禁ず

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication